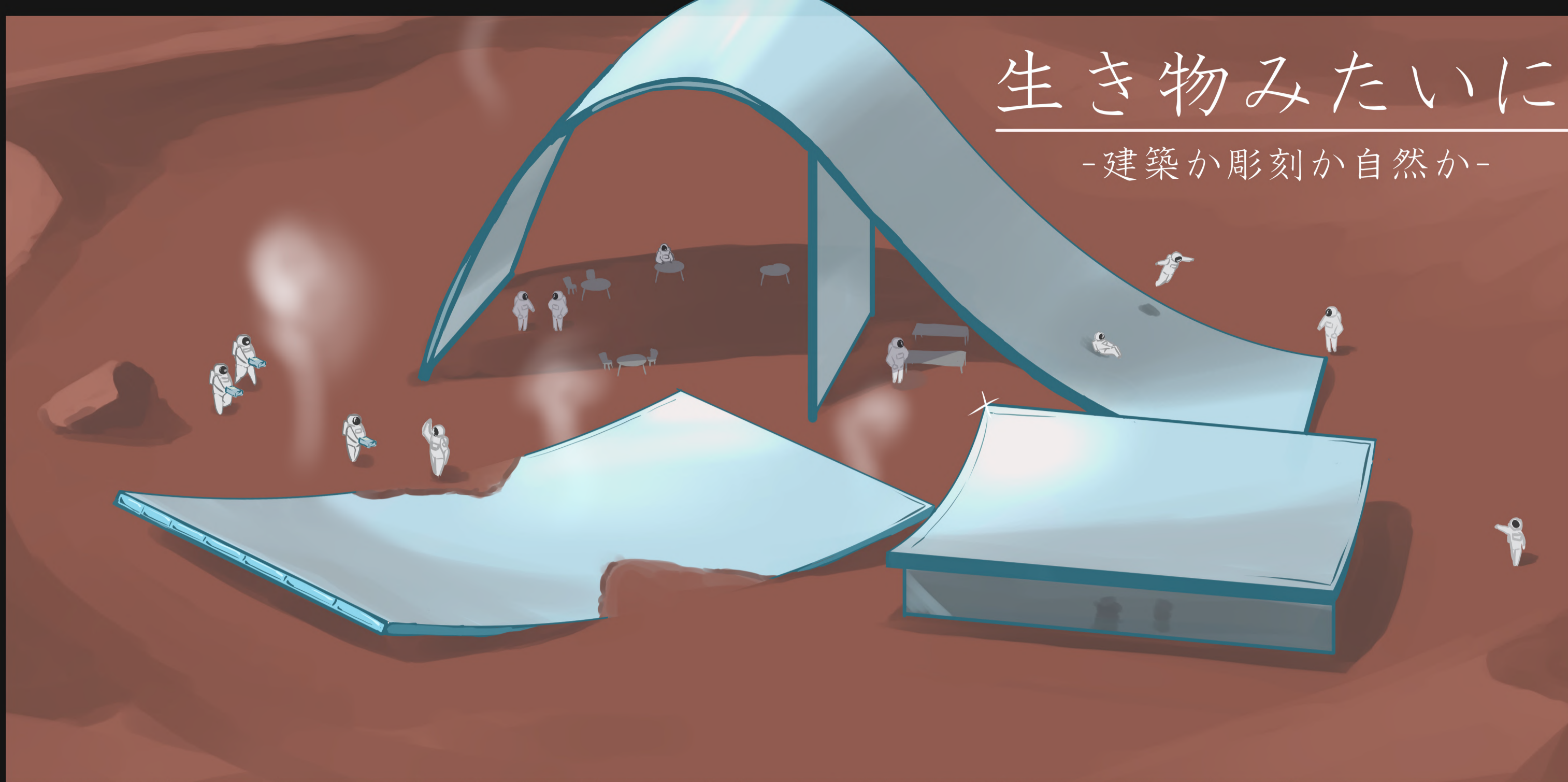


# 生き物みたいに

-建築か彫刻か自然か-



## 01\_ストーリー

20XX年、人類は火星に移住する。  
火星の地表面で起こる砂嵐や、放射線被爆から逃れるために、洞窟などの地下空間に移動する。地下という限られた空間での生活は窮屈かつ退屈なものに加え、別の洞窟まで遠いので人との交流の機会もどんどん失われていく。この問題を解決すべく、火星というとてつもなく解放されたGLにコミュニティセンターが設けられた。火星では、この氷の結晶によってコミュニティの維持がなされている。窮屈かつ退屈を脱する非日常は、GLにちりばめられている。

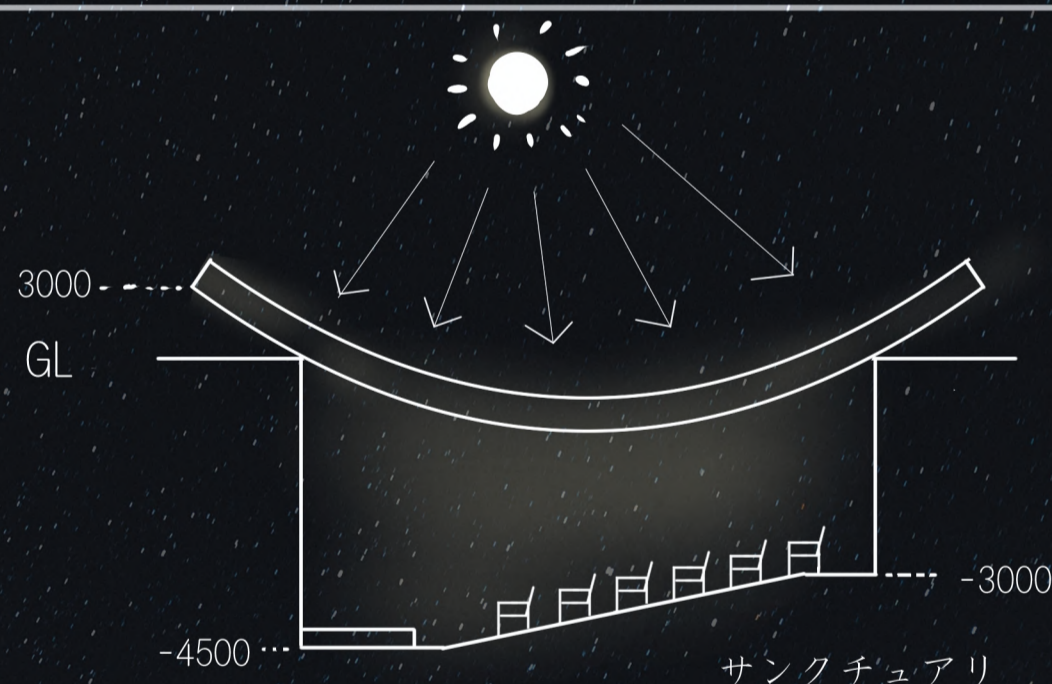
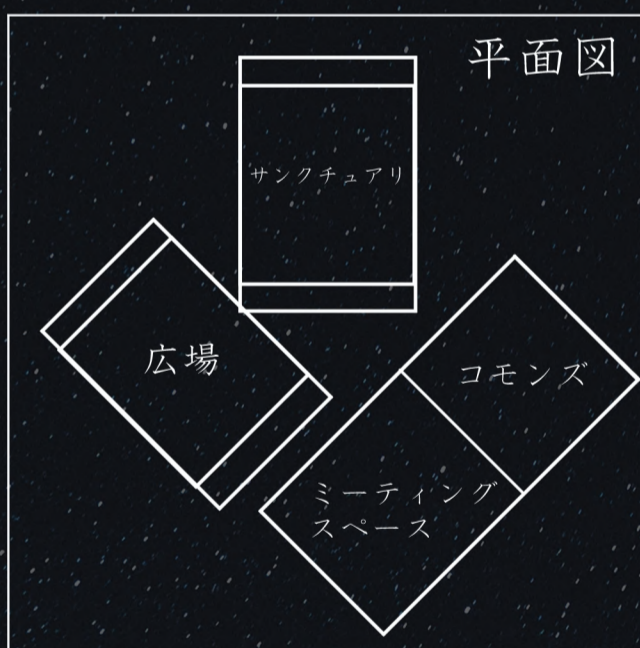
## 02\_火星における物の性質

火星の平均気温は $-63^{\circ}\text{C}$ 、最低で $-130^{\circ}\text{C}$ 、最高で $30^{\circ}\text{C}$ 、平均気圧は6hPa程度、この特殊な環境では、氷は水にならず気体として昇華する。時間が停止している感覚がある氷に、時間変化が与えられることから、素材として氷を利用する。加えて、火星の重力加速度は地球の約0.38倍、カテナリー曲線は地球のそれとは異なったものになることを利用する。



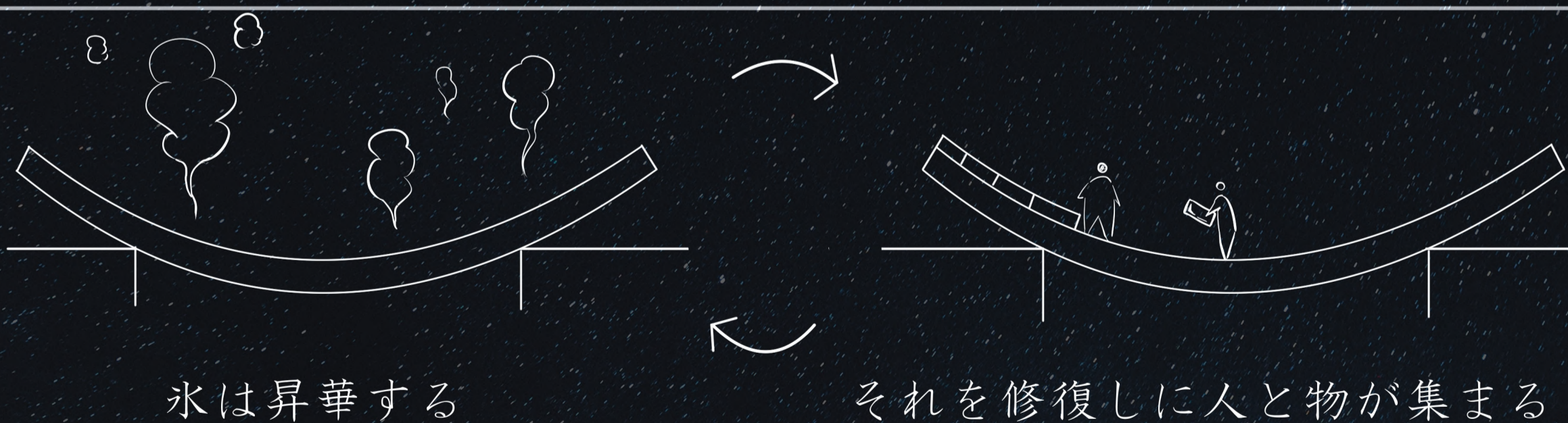
## 03\_構成意図と空間体験

地球でキリスト教徒が、毎週日曜に教会で顔を合わせ、地域コミュニティを維持してきたように、この建築にもその役割を期待する。広大な自然に囲まれてくつろげるので、会議などがより開放的に進んでいく。サンクチュアリでは氷で揺らめく天の光で明るく、また、礼拝所としては、祈りは煙となって天に届く。音が伝わらない火星では、透ける氷壁が人の気配を教えてくれる。



## 04\_サイクル

氷を使うことにより、建物の修繕サイクルを定期化し、コミュニティの維持を図る。



## 05\_断面操作

カテナリー曲線を持つ三つの大屋根をそれぞれ別の高さに、より自然との境界があいまいになるよう決める。

